

に行方不明となった。

(話者 柏木平蔵)

## 矢田野(矢壇)の由来

《矢田野》

桓武天皇の御代、延暦の頃、坂上田村麿將軍、奥州達谷ヶ窟に籠って抵抗する蝦夷の頭、高麿、悪路王を打つため、奥州に向かった。

街道白河より松本の稚児の橋を渡り、矢田野の広野を通り大久保の弘法壇にかかり、奥州に達した。將軍、この広野にかかりしとき天に祈り、国土守護のため天に向かって大矢を放つた。矢は広野の中央に落ちた。ここに壇を築いて、持仏の十一面觀世音を置いて祈つた。西の方に神居山があつて、ここにこの觀世音を安置した。

大矢の落ちた所に築いた壇を矢壇といつたので、村の名は矢壇と言うようになった。いつしか矢田野という字を当てた。今も呼名は、「やだん」といつている。



磐女神社 (矢田野)